

芝久保小学校 研究だより

令和7年12月10日(水) No.3 西東京市立芝久保小学校 研究主任

体育科分科会

《体育科分科会 目指す児童像》

【低学年】自分や友達の動きに注目して、勝つための方法を友達に伝えようとする児童

【中学年】ゲームの型やチームの課題を踏まえて、作戦や動きの工夫を友達に伝えようとする児童

【高学年】自己やチームの特徴や課題を踏まえて、作戦や動きの工夫を他者に伝えようとする児童



【協働的な学びの充実】

児童が互いに協力し合い、共に学びを深めていくことを目指し、自分や友達の動きに注目しやすく、勝つための方法(作戦)の工夫がしやすい、攻守分離型の的てゲームを行いました。



【協働的な学びの充実】

学習カードには、今まで試した作戦を書き留めたり、ポイントをまとめたりしました。勝つための方法(作戦)の工夫や応用が増えていくと、ゲームも盛り上がりていきます。何度も学習カードを見返しながら、作戦を考えている姿がたくさん見られました。



【学習過程や課題設定の工夫】

単元前半は、楽しくゲームができる場や得点の方法などの規則について、単元後半は、勝つための方法(作戦)について話し合う活動(チームタイム)を取り入れました。「1回目に行ったゲームがどうだったのか」「取り入れた作戦が上手くいったのか」などゲームを振り返りながら、話し合いを行いました。



佐藤先生の話を真剣に聞く子どもたち。自分たちでダンボールを重ねて、ボールを準備して……話し合いになると、「もっと動いた方がいいかな?」「今度は違う作戦を使ってみようよ!」と自分の考えや意見をしっかり友達に伝えることができていました。先日行われた音楽発表会でも、立派に合唱や合奏を披露してくれた1年生。小学校に入学してから「勉強すること」「友達と仲良く生活すること」「元気いっぱい運動すること」を毎日学んでいます。その積み重ねを見ることができる授業でした。

協議会で、指導観・教育観の転換期という話がありました。教師が教える教育から、学習者中心の教育へ——自立した学習者の育成が現代の学校現場で求められています。しかし、子どもたちはいきなり「自立した学習者」になることはありません。友達との関わり、教師の声掛けがあって、少しずつ自立した学習者へ成長していくと、私は思います。佐藤学級の子どもたちも同じです。4月から佐藤先生と積み上げてきた信頼、関わりがあったから子どもたちが安心して学習に取り組むことができます。職員室から青階段へ向かう途中にある1年1組の教室。その前を通るたびに、佐藤先生と子どもたちの楽しそうな声が聞こえています。あと4か月したら、一つ上の学年になります。これからも元気で素直な気持ちを大切に、素敵な2年生になることを願っています。

今年度の研究授業が全て終了しました。ここから研究をまとめる作業に入ります。また、この研究だよりが多くの方々のお目に留まるよう……職務を全うしていきます。